

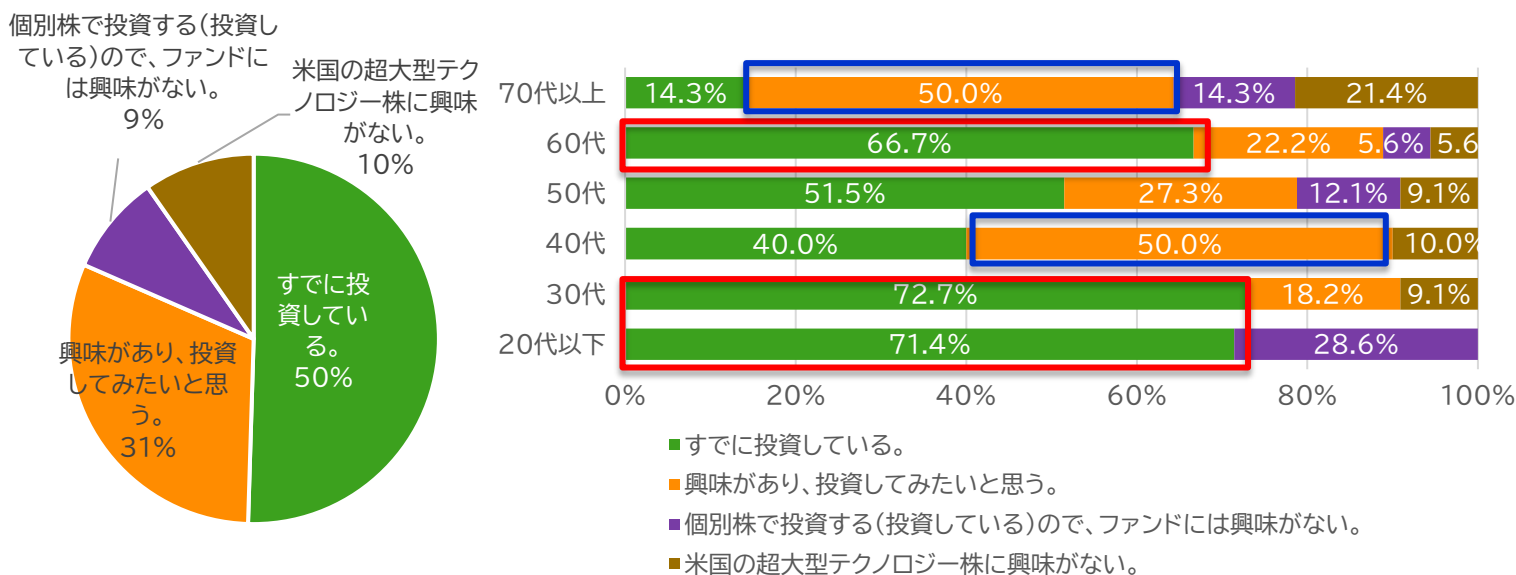
テック関連セクター投資への関心は8割超！

キーワードは「高リターンの可能性」と「持続的な成長力」

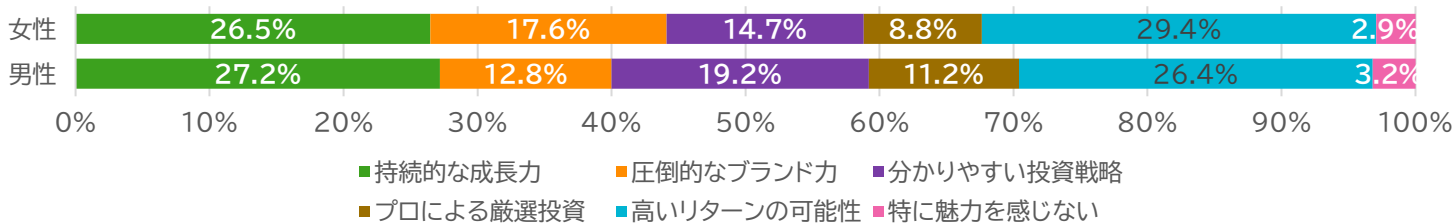
生成AIの普及などを追い風に、米国の超大型テクノロジー企業は世界の株式市場における存在感を一段と高めている。そこで、超大型テクノロジー企業への投資意向や、集中投資を行うファンドについてのアンケートを実施した。

テクノロジー関連株式へ投資するファンドについては、「すでに投資している(50%)」と「興味があり、投資してみたいと思う(31%)」の合計が8割超となり、関心は高い。年代別に見ると、すでに超大型米国テクノロジー株式へ投資している人は、**20代以下・30代・60代で相対的に高い**。一方、40代および70代以上では保有割合は相対的に高くないものの、「興味があり投資してみたい」が約半数みられる。こうしたファンドを魅力的に感じる理由は、男女とも「分かりやすい投資戦略」と「持続的な成長力」が上位に挙がった。一方で3位は、女性が「圧倒的なブランド力」(17.6%)、男性が「プロによる厳選投資」(19.2%)となり、違いがみられた。

【米国の超大型テクノロジー株に集中投資し、時価総額に応じて定期的に銘柄入れ替えを行うファンドについて】



【超大型テクノロジー企業群へ集中投資するファンドの魅力(複数回答可)】



※調査機関、調査概要についてはP3「アンケート実施概要」をご確認ください。
※比率の合計は四捨五入の関係上100%とならない場合があります。
※資産運用会社である当社のウェブサイトで行ったアンケートであるため、資産運用について詳しい方が多いと考えられ、一般的な調査の傾向と異なる場合があります。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

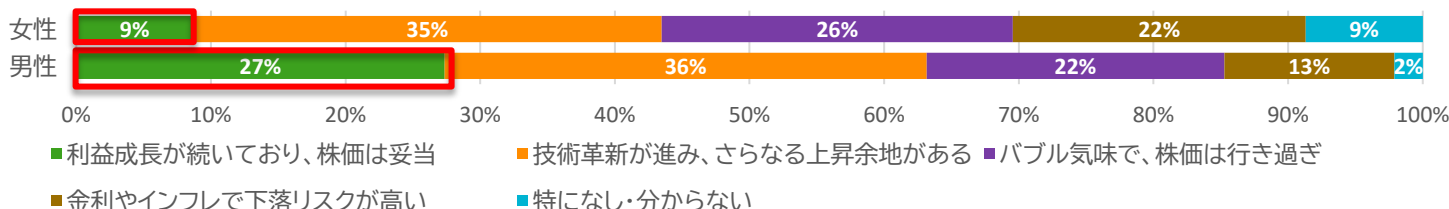
集中投資の着眼点の違い——男性は「選別・リターン」、女性は「リスク・ブーム感」

超大型テクノロジー企業の株価水準の見方には男女差があり、「成長が続いており株価水準は妥当」と考える女性は9%に対し、男性は27%と18ポイント高く、男性の方が評価は高い。ただし、「技術革新が進み、さらなる上昇余地がある」は同程度(女性35%、男性36%)と、男女ともテクノロジー企業への期待感が高い。

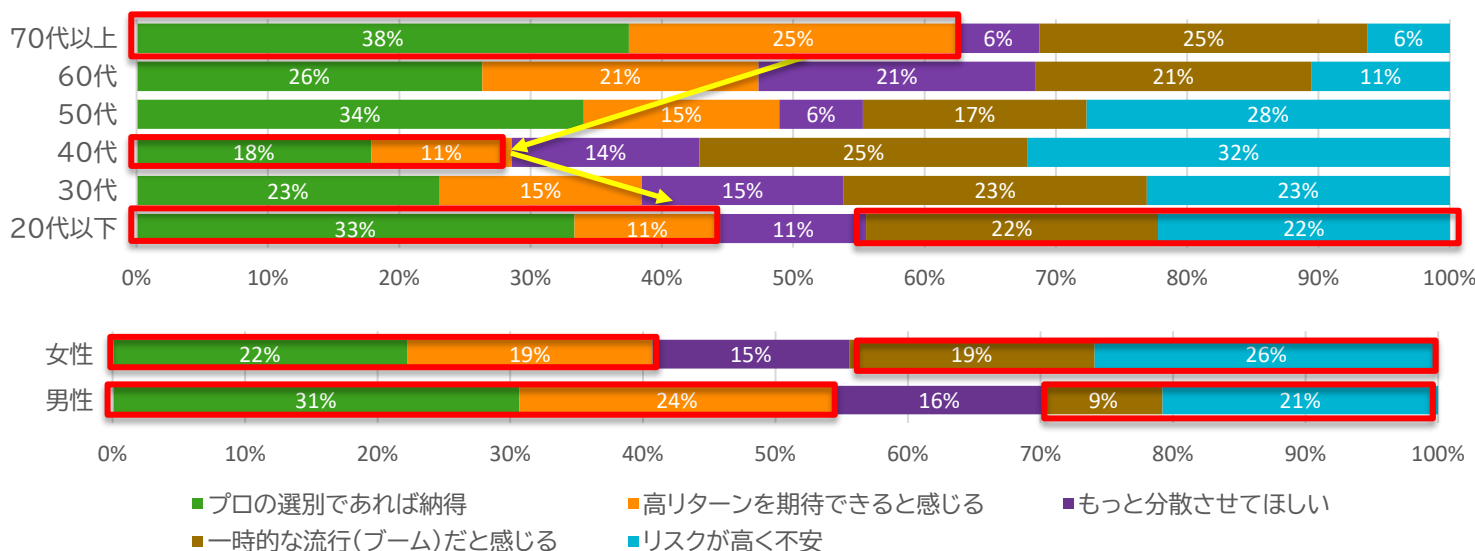
集中投資への受容度は年代差がみられ、70代以上は「プロの選別であれば納得」が38%、「高リターンを期待できると感じる」が25%と最も集中投資に対し好意的であるが、年代が下がるほどポジティブではなくなる傾向があった。40代では「リスクが高く不安」が32%、「一時的な流行(ブーム)だと感じる」が25%と受容度が一番低い。以降は、若くなるにつれてネガティブ意見の割合が小さくなり、20代以下はポジティブ意見とネガティブ意見がそれぞれ合計約45%程度と反応が二分した結果となった。

性別では、男性は「プロの選別であれば納得」(31%)と「高リターン期待」(24%)が女性(22%、19%)より高いのに対し、女性は「リスクが高く不安」(26%)や「一時的な流行」(19%)が男性(21%、9%)より高い。男性は集中投資への期待感が高く、女性はリスクや持続性を含めて慎重に見極める姿勢がうかがえる。

【現在の超大型テクノロジー企業の株価水準について】



【「10銘柄以下に集中投資するファンド」について】(複数回答可)



※調査機関、調査概要についてはP3「アンケート実施概要」をご確認ください。
※比率の合計は四捨五入の関係上100%とならない場合があります。
※資産運用会社である当社のウェブサイトで行ったアンケートであるため、資産運用について詳しい方が多いと考えられ、一般的な調査の傾向と異なる場合があります。

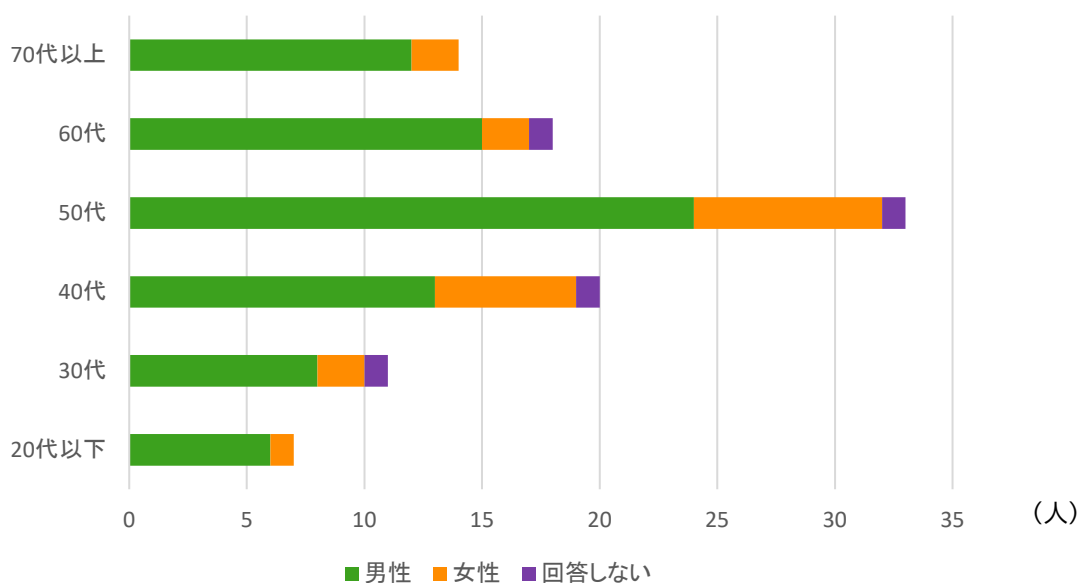
※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

アンケート実施概要

- 実施方法 当社Webサイトにおけるネット調査
- 実施期間 2026年3月26日～4月9日
- 対象者 当社Webサイト訪問者等
- 回答者の属性

総回答数		103人	
性別	男性	78人	75.7%
	女性	21人	20.4%
	回答しない	4人	3.9%

回答者の年代別性別



投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

【ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。】

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料： 上限3.85%（税込）

換金時手数料： 換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額： 上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）： 上限 年率2.463%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料

上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。
- 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は、
 1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。
 2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
 3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。